

事業の名称：「海潮子ども神楽」でにぎわいを！

団 体 名	海潮地区振興会	事 業 費	156, 476 円
代 表 者	会長 佐藤 治美	補助金交付額	150, 000 円

現状と課題

海潮地区が誇る伝統「海潮神代神楽」は、4つの社中により守られてきました。昨年度発足した「海潮子ども神楽」は地域の連帯感を強める新たな希望となりました。明るい兆しが見える一方で、文化の伝承をしてくれる担い手不足は依然として深刻な課題となっています。

また、コロナ禍などにより地域の魅力や文化に触れる機会も限定的となっています。神楽を「見る」だけでなく、地域のシンボルとして地域内外の人が交わり、地域全体の賑わいへと波及する仕組みづくりの構築と関係人口（海潮ファン）の創出による地域を支えてくれる担い手の確保が必要となっています。

事業の目的

1.次世代の担い手育成と伝統の継承

「海潮子ども神楽」の活動や体験の場を通じて、子どもたちが伝統文化に直接触れる機会を創出し、神楽への興味・関心を育むことで、将来を支える技術の伝承者と、地域文化を担う次世代リーダーの育成を目指します。

2.交流の創出による「海潮ファン」の開拓

神楽を起点とした地域内外の交流を促進し、海潮地区の魅力を発信します。単なる観客としてではなく、継続的に地域を応援・関与してくれる関係人口「海潮ファン」の開拓をおこない、外部の力を入れた持続可能な地域維持の仕組みづくりを目指します。

実 施 内 容

◇実施状況

①海潮子ども神楽の活動の支援

「夜神楽大会」や「うしお祭り」での発表に向け、計16回の指導をうけた。子どもたちはこれまでの経験を活かしながら熱心に活動した。

②地域イベントへの出演

大東町神楽共演祭（来場：約250名）・夜神楽大会（来場：約400名）・うしお祭り（来場：500名）への参加。イベントへの出演を通して海潮地区の魅力発信を行った。

③地区内外への発信等

春殖交流センター（他地区）での高齢者を対象としたイベントへの出演、大東小学校3年生（ふるさと学習）での「神楽体験の場」を提供。衣装を着けたり、太鼓をたたいたり、笛を吹いたりと実際の体験から、神楽の魅力の発信を行った。

◇成果と課題

前回の取組から「海潮子ども神楽」の結成に繋げることができた。今回は文化の伝承者である4つの社中による指導を受けて、実際にイベントへの出演を通して伝統文化に直接触れる機会の場の提供ができ、地域内外から訪れる人々の集客にもつながり、「海潮ファン」として応援してくれる新たな関係人口や地域外からの担い手確保につながる一歩になった。地域のシンボルとして文化伝承してくれる担い手の確保に向けて継続的に取組んでいく必要がある。

